
偽りの神が蝕む世界

無月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偽りの神が蝕む世界

【Nコード】

N5265P

【作者名】

無月

【あらすじ】

人が神となるか…神が人となるか…

主人公 東雲 杏が選んだ道とは？

プロローグ（前書き）

初めて書きました。緊張します

プロローグ

西暦二〇七〇年・・・突如出現した化け物、人々はソレを八百万の神に例えて、こう称した【アラガミ】と・・・

この物語の主人公である東雲^{しののめ} 杏^{あんず}彼女は辛い過去を背負っていた・・・
・当時、彼女はまだ十歳だった。だがある日、いつものように家族でかくれんぼをしていると、突然！両親がアラガミに食べられてしまったのだ。だから、その時を境に彼女はこう思うようになった「お父さんとお母さんを食べたアラガミを一匹残らず破壊する！！」
・・・と

プロローグ（後書き）

無事に一話目ができました。よかった・・・

第一章 彼女の過去（前書き）

小説を書くのは意外に体力を使いますね・・・もしかして俺だけかも、しれないですが・・・

第一章 彼女の過去

今日も両親とかくれんぼをしていた。

私は決まって旧市街地区にある倉庫にあるクローゼットの中に隠れるもういいかい。「まあだだよ」もういい・・・かい。「まあだだよ」もう・・・いい・・・かい「まあだだよ」もう・・・か・・・「まあだだよ」・・・

声が聞こえなくなった・・・別の場所を探しに行つたのだろうか。

否、突如現れた異形の姿をした化け物に補喰・・・つまり食べられたのだ。「い、いや・・・食べないで・・・お父さんとお母さんを食べないで・・・」彼女はクローゼットの隙間から見える両親だったモノに眼を向けた。

すると、化け物は彼女の気配を感じたのか、こちらに歩み寄ってくる。

「来ないでえ、来ないでよお、私をたべないでえええっ」そこで彼女の意識は途切れた。

しかし、補喰されたわけではなかった・・・彼女の意識が途切れた後、一人の男がやってきたのである。

化け物は男に視線を向ける、そこから男と化け物の壮絶な戦いが幕をあけた・・・

それから数時間後に男は化け物を撤退させることに成功した。

そして男はクローゼットに眼を向けた、そこから彼女をだし、抱えた。男は呟く「希望の子よ・・・」と。

第二章 希望の子（前書き）

眠い、
すごく眠いです

第二章 希望の子

「ん・・・うん ふわぁぁ」目が覚めると私は見知らぬ場所に居た。「此処は、何処なの？」私は呟く・・・すると、どこかから声が聞こえた「よお、起きたか。お前は両親を失ったショックで、ずっと眠ってたんだ」なにかの袋を抱えている男が喋る。「・・!?!う、うそよ・・お父さんやお母さんが・・死んじゃったなんて。」「返して!お父さんとお母さんを返してよお・・」私は男に問いかけた「落ち着いてくれ、俺の名は藍染 春人へあいぜん はると」お前、名はあるのか?」

「わ、私は東雲 杏へしのめ あんず」です・・・」杏は春人の問いに答える。「まあこれでも食ってるや・・・」春人が差し出したのは飴だった「・・へっ、飴!?!」「いやゝすまん、すまんこれしか見つからなくてな」

「いきなりだが、俺の妹にならないか?いや、ほらな?お前、今一人だろ?これからどう生きるか心配だしな。」杏は「べ、別に・・いやでも無いけどさ」と言うと言をなめ始めた。「ん、途中が聞こえなかったが・・」すこし怒りながら杏は言った「だーから!妹になってもいいよって言ったの!?!一人じゃ生きてけないから・・」「おお、そうか嬉しいな。」そこから春人との生活が始まる

第二章 希望の子（後書き）

なんか全体的に文章短いですね、俺。しかもなんかてきとーだしさ。

第三章 春人との生活（前書き）

ある人より指摘があったのですが・・・俺はそこまで細かくできるようなタイプではありませんので自分なりにいかせていただきます。その上で誤字、脱字等ありましたらご指摘ください

第三章 春人との生活

春人との生活が始まった。

「は、春にい、ところでさ その腕輪って何？」 「ん？ ああ、これのことか・・・これはな P53 アームドインプラントだ、要するにコイツを制御するためのものだ」と言っけてケースの中のモノを取り出した

「コイツはな神機へジンキ」と言っけてだな、俺たちゴッドイーターがアラガミに対抗するために作られた専用の武器だ」 春人は説明を続ける。「俺の神機は旧型の剣タイプだ、旧型は二つの形態があって近接戦闘の出来る剣形態と遠距離戦闘が出来る銃形態の二種類に分かれている、剣形態に限り補喰形態へプレデターフォーム」というのがあり、神機で逆にアラガミを補喰する事が出来るんだよ。更に剣形態と銃形態の双方の特性をあわせ持つ『新型』と呼ばれる物も存在するらしい」 杏は長々と説明する春人に対して呆氣にとられていた。

「ゴッドイーター？ 私になりたい！ 私も春にいたいなゴッドイーターになってお父さんとお母さんを食べたアラガミをぜんぶ壊すんだ！」 杏は微笑みながら答えた。

くそっ、杏の心は回復しきってなかったのかよっ！ 春人が心の中で呟いた。

第三章 春人との生活（後書き）

はあ眠いです。

第四章 旅立ち（前書き）

感想で二人の方から改行してと言われました。
頑張って改行をマスターしなきゃです
一部分プロローグの設定を変更しました。

第四章 旅立ち

春人との生活から五年の月日が流れた

「杏はもう15歳なのか。」

「春にいい聞いて！私ね新型神機の適合候補者に選ばれたの！やっ
と、春にいいおんなじ仕事に着けるね」

「バカか！ゴッドイーターは常に危険と隣り合わせなんだよ！！」

「でも、春にいいが守ってくれるから、大丈夫だもん」

「それでね・・・一週間後にフェンリル極東支部って所に行かなきゃいけないの」

「極東支部・・・俺を特務でこっちにやらせた、アイツが居る所か」
「えっ！？じゃあ春にいいも極東支部に居るんだ。やった！また、春にいいと一緒にだね」

それから一週間後・・・

「此処がフェンリル極東支部・・・」

「やあ、よく来てくれたね。杏君それと春人君も・・・ね」後ろから聞こえた声に二人は振り向いた

「誰！？」杏が尋ねる

「紹介が遅れたね。私は此処、極東支部の支部長を務める片霧 朱雀へかたぎり すぐく」だ 以後宜しく頼むよ、杏君」

「あっ・・・はい。宜しくお願いします」

「杏君、今日は疲れただろう、ゆっくり休むといい。部屋は春人君と同じ部屋を使ってもらおうよ」

「今日は疲れをとって明日、適合試験をおこなおうか。」朱雀は一方的に話を終わらせると何処かへ行ったのだった

第四章 旅立ち（後書き）

改行・・・こんな感じでいいのでしょうか？
俺の小説、文が短い気がする・・・

第五章 春人の部屋

「此処が春にいの部屋かあゝ」

「杏、あんまりジロジロみないでくれ・・・」

「ところでさ、お風呂ってあるの？」

「ん？ ああ、扉を開けてから右側にあるぞ。」

「どうしたんだ、早く入ってこいよ」

「あ、あのね一緒に風呂入らない？」

「・・・ば、馬鹿なこと言うんじゃないよ。」春人は頬を赤く染めながら言った

「あつ、春に照れてるの？今の私の身体、そんなに魅力的？」

「だから、ちげえっての。いいから、早く入ってこいよ」

「ふふつ、冗談だよ。春に、じゃあ入ってくるね」

それからすぐにシャアアアアという水の音が聞こえた。

水の音に紛れて春人は呟く

「明日は杏の初陣になるかも・・・」

「ふうゝさっぱりしたあ。春に私も入ってくれば？」パジャマ姿の杏がやってくる

「いや、俺は後で入るから、杏は先に寝てろ」

「はあゝい、おやすみ春にい」

「ああ、お休み」そして、杏が寝てから風呂に入ったのはいうまでもないであろう。

第五章 春人の部屋（後書き）

ああく眠たい、更新するのが夜の遅い時間なのですぐ眠たいです

第六章 朝は苦手です。(前書き)

感想を書いた方々へ

改行の方に関しては出来る限りの修正をしていきますが
文が短いのは仕方ありませんので、ご了承ください。

第六章 朝は苦手です。

そして、次の日の朝になった

「おゝい、杏起きろ！もう十時だぞ！」

「・・・んうゝ後二〇分・・・」そう、杏は朝に弱いのである。

「早くしねえと適合検査始まるぞ！」急かす春人

「ああゝもう、さっさと起きやがれ！」

ガバアッ！・・・

ついに春人は布団をめくった・・・

「・・・はい？」

ふと目をやると、杏のパジャマがはだけていた。

「やれやれ、朝から立派なもんさらけ出すなよ」と言いとっさにもう一度布団をかぶせる。

布団を剥いだときに杏の胸部が見えたのだった。

春人は柵の中からメガホンを取り出した。

なんで、そんなものがあるかって？解らない、最初から支給される物の一つらしい

メガホンを口の近くへ持っていき、息を吸う。

「あんず！おきろお！もう10時だぞ！！」精一杯、声をだして叫んだ

その直後、杏の身体がビクッ！と震えた

「・・・おはよう、春にい。そんなに大きい声出して何かあったの？」

「今日は検査の日だろ、いいのか？支度しなくても」春人は呆れながら喋った

「しまった、忘れてた！待ってて、春にい。すぐに準備するから」と言い杏は髪をとかす、顔を洗うなどの一連の作業を次々に済ませていく。

「終わったよ、春にい！」

「やっとかよ、じゃあ行くとするか。」

第六章 朝は苦手です。(後書き)

なぜでしょう？

俺、p s pで書いてるのですけど、いつもこれくらいの量しか書けないんですよ。

ほかにp s pで書いてる人いたら、なぜなのか教えて下さい。

第七章 検査開始

「杏、此処が支部長室だ」

「場所を覚えとけよ。」

「うん、わかってるよ。春にい」

「ほんとにいいんだな？」

「へっ？、なに言ってるの？」

「そうか、じゃあ入るか。」

コンコンッ！

静かな場所にノック音が響く

「片霧支部長来ましたよ」杏が言った

すると、扉の奥から声が聞こえた

「ああ、入ってくれたまえ」

ギィィッ！

扉が開く。自動で開くようだ。

「杏君、やっと来てくれたね。ずっと待っていたよ。」

「すいませんでした。私、朝は苦手で・・・」

「気にしないでくれ、だが時間がおしている。早速、検査を始めようか。」

「私は、この後会議があつてね」

「あの・・・検査って何処でするんですか？」

「このフロアの下で行う。」

「ここじゃないんですね」

「そうだ、そこだがここから先は、階段で行ってもらおうよ。ついでで、春人君も来たまえ」

「最初からそのつもりだ。朱雀」

「ねえねえ、早く行こっ！春にい」

「私、先に行って待ってるね！」

そう言う杏は、階段を駆け下りていった。

「俺に聞いた意味あんのか？」

春人は呟く

「春人君、杏君は嬉しいのだよ。この仕事に就けることが・・・ね」
「でも、あいつはこの仕事がどういふことかわかってねえ。」

「それは、春人君・・・キミが教えてやるんだ」

「そろそろ、行くとしようか。下で杏君が待ってるからね」
朱雀はそう言うのと階段を下りていった

春人は一人呟く

「杏は、俺が守らねえとな・・・」
そう言うのと春人も階段を下りていった

第八章 適合検査（前書き）

七章からメール投稿を試みようと考えてみました。
そうすれば、p s pでの文字数制限も気にしなくて済むからです。

第八章 適合検査

階段を下りると杏と、朱雀が居た

「遅いよ、春にい」

「ああ、わりい」

「片霧支部長、早く始めましょう。」

「そうしようか、では杏君始めよう。」

「杏君にはその窓から見えるホールに降りてもらう」

「ここらへんでいいですか？」

杏は階段を駆け下りてから言った。

「ああ、目の前に装置があるだろう。その装置のくぼみに手をおくんだ」

不気味な装置だな・・・杏はそう思いながら手首を置いた。否、正確には手首を半腕輪状のものにはめたと言うべきだろう

「こ、こうかな？」

杏が手を置いたのを確認し、手元のスイッチを押した

「!？」

すると、突然、手首を挟むように上から半腕輪状のものが落ちてきた。

杏の身体に痛みが走る。

「うぐっ、あああああああああああああああああつ!!」

「耐えてくれ、杏!!」

「あああつ!!くあつ!!ひぎっ!!があああああああつ!!」

何かが――ナニカガハイッテクル

右手から侵入してくる何かは、わずかな時間で杏の全身を侵し尽くした。

まるでそれは杏の身体を引き裂いて肉、内臓、骨、全てを取り出しムリやり中に押し入ってくるそんな感覚だった

「ああっ、うっ、あああああああああああつ!!」

「くっ」春人はわずかに目をそらす

だが朱雀は違った、杏を見続けた。

その目はどこか狂熱的な色合いさえ浮かんでいた。

「耐えろ、耐えてくれ杏！」春人も必死に叫ぶ

「うっ・・・うあああああああつ！」そのときの杏の様子はまるで大きく口を開けて吼えているようだった。

そして――――

プシュウウウツッ！

杏の右手を挟み込んでいた部分が上へと持ち上がる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5265p/>

偽りの神が蝕む世界

2010年12月25日19時56分発行